

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 5 区分
 【発行日】平成 18 年 9 月 28 日 (2006.9.28)

【公開番号】特開 2005-226217 (P2005-226217A)
 【公開日】平成 17 年 8 月 25 日 (2005.8.25)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-033
 【出願番号】特願 2005-33926 (P2005-33926)
 【国際特許分類】

A 4 1 D 13/00 (2006.01)

A 4 1 D 1/08 (2006.01)

【F I】

A 4 1 D 13/00 G

A 4 1 D 1/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 16 日 (2006.8.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 つの弾性素子 (20) を有して成る、身体の一部に着用される衣服であって、

前記少なくとも 1 つの弾性素子 (20) が、少なくとも第 1 部分に配され、前記身体の一部において前記第 1 部分に対向する第 2 部分は基本的に弾性素子を有さず、

前記身体の一部の第 1 の方向に向けた第 1 の動作による弾性伸びによりエネルギーを蓄積し、前記身体の一部の反対方向に向けた第 2 の動作において、前記エネルギーを放出することにより、前記身体の一部の第 2 の動作を支援することを特徴とする衣服 (10)。

【請求項 2】

着用時、前記少なくとも 1 つの弾性素子 (20) が実質的に大腿部 (25) の背面に配され、該大腿部 (25) の前面領域には実質的に配されないことを特徴とする請求項 1 記載の衣服 (10)。

【請求項 3】

前記少なくとも 1 つの弾性素子 (20) が前記大腿部に略並行に延びていることを特徴とする請求項 2 記載の衣服 (10)。

【請求項 4】

前記少なくとも 1 つの弾性素子 (20) が前記大腿部の背面において略対角線状に延びて成ることを特徴とする請求項 2 記載の衣服 (10)。

【請求項 5】

幾つかの弾性素子 (20) が前記大腿部の背面において交差して成ることを特徴とする請求項 4 記載の衣服 (10)。

【請求項 6】

前記弾性素子 (20) が下端部に膝の直上部において脚を包囲する下部締結部 (24) を有して成ることを特徴とする請求項 2 ~ 5 いずれか 1 項記載の衣服 (10)。

【請求項 7】

前記弾性素子 (20) が上端部に前記大腿部の上部において前記身体の一部を包囲する上部締結部 (26) を有して成ることを特徴とする請求項 2 ~ 6 いずれか 1 項

記載の衣服（１０）。

【請求項 ８】

前記少なくとも１つの弾性素子（２０）が、弾性バンド（２０）から成っていることを特徴とする請求項 １～ ７いずれか １項記載の衣服（１０）。

【請求項 ９】

前記弾性バンド（２０）が繊維材料（１５）の上に配されて成ることを特徴とする請求項 ８記載の衣服（１０）。

【請求項 １０】

前記弾性バンド（２０）が前記繊維材料（１５）に接着および/または縫着および/または注入されて成ることを特徴とする請求項 ９記載の衣服（１０）。

【請求項 １１】

前記弾性バンド（２０）が 1 mm 未満の厚さを有して成ることを特徴とする請求項 ８～ １０いずれか １項記載の衣服（１０）。

【請求項 １２】

前記弾性バンド（２０）が 1 cm ～ 5 cm の幅を有して成ることを特徴とする請求項 ８～ １１いずれか １項記載の衣服（１０）。

【請求項 １３】

前記弾性バンド（２０）の前記厚さおよび幅が長手方向に沿って変化していることを特徴とする請求項 ８～ １２いずれか １項記載の衣服（１０）。

【請求項 １４】

前記弾性バンド（２０）が最大 100 % 伸張可能であることを特徴とする請求項 ８～ １３いずれか １項記載の衣服（１０）。

【請求項 １５】

前記弾性バンド（２０）により、標準伸張試験における 100 % 伸張時に 5 N ～ 50 N の復元力が得られることを特徴とする請求項 １４記載の衣服（１０）。

【請求項 １６】

前記弾性バンド（２０）が熱可塑性ポリマーから成っていることを特徴とする請求項 ８～ １５いずれか １項記載の衣服（１０）。